

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名 健康診査事業費（各種がん検診費）		担当 保健所健康増進課	
事業概要		職場で検診を受ける機会のない自営業の方、主婦、高齢者などで40歳以上の方を対象に、胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん検診を、20歳以上の方を対象に、子宮頸がん検診を実施	
		事業費(A) 概算人工 人件費換算(B) トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	47,998 千円 3.5 人 20,087 千円 68,085 千円		
R7予算	53,000 千円 3.5 人 20,087 千円 73,087 千円		
目標		がんの早期発見・治療を促進することにより、健康寿命の延伸に寄与する。	
実績・効果		各健康診査の受診者数は次のとおり 令和5年度 胃 1,060人、大腸 3,296人、肺 1,388人、乳 1,480人、子宮頸 2,085人 令和6年度 胃 1,063人、大腸 3,274人、肺 1,365人、乳 1,365人、子宮頸 2,103人	
点検・評価	点検項目	評価	評価の理由等
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	死亡者数の最も多いがんの予防や早期発見を促進する対策の必要性は高い。
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	・国が指針を定め、科学的根拠に基づくがん検診を実施しており、検診受診者数等の指標や取組みの効果等を明確に評価できるため、妥当性は高い。 ・モデル地区アンケート結果を基に、検診会場を追加するなど、市民が受診しやすい環境づくりに取り組んでいる。
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	本市の死亡者数上位を占めるがんに対する対策（本事業）により、市民の健康寿命の延伸や将来的な医療費の削減が期待できるため、有効性は高い。
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	・交付税措置がある。 ・国が推奨する5大がん検診は、早期発見・治療により治癒率が高いとされており、本事業を実施する費用対効果は高いと考える。
評価の結果を踏まえた今後の方向性			継続
【今後の方向性の説明】 がんの早期発見による医療費の削減や健康寿命の延伸につながるため、本事業は必要であり、今後も継続していく。			

事業名 受動喫煙対策促進事業費		担当 保健所健康増進課	
事業概要		「望まない受動喫煙」のない環境づくりを目指し、改正健康増進法及び北海道受動喫煙防止条例に基づき、事業者や市民に指導・相談を行う。	
		事業費(A) 概算人工 人件費換算(B) トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	30 千円 0.3 人 1,722 千円 1,752 千円		
R7予算	38 千円 0.3 人 1,722 千円 1,760 千円		
目標		市民や事業者に対する周知啓発等により、望まない受動喫煙をなくす	
実績・効果		市民等からの相談や苦情への対応を実施。新規飲食店へは営業許可申請時に啓発をしており、飲食店の受動喫煙防止対策は強化されてきている。 令和5年度：相談・苦情・調査等対応13件、新規飲食店等啓発262件 令和6年度：相談・苦情・調査等対応12件、新規飲食店等啓発287件	
点検・評価	点検項目	評価	評価の理由等
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	健康増進法、北海道受動喫煙防止条例に基づく対策であり、受動喫煙対策は、市民の健康づくりにつながり、将来的な健康寿命延伸に寄与するため、必要性は高い。
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	国から受動喫煙を防止するための措置を推進するよう求められており、新規飲食店や相談・苦情が寄せられる施設（多数の者が集まる施設が多い）での周知啓発の取組みは、一定の妥当性があると考え。
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	喫煙などの課題がある場所への対応や市民への啓発活動は、一定の効果が認められ、有効性があると考え。
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	国補助を活用しながら事業を実施しており、効率性は高いと考える。
評価の結果を踏まえた今後の方向性			継続
【今後の方向性の説明】 国の受動喫煙防止対策の動向に沿いながら、受動喫煙防止対策の周知徹底を継続する。			

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名 歯科保健事業費				担当 保健所健康増進課					
事業概要		生涯自分の口から食べるにより健康寿命の延伸に貢献することを目的として、歯科健診、フッ化物歯面塗布を行うほか、口腔清掃や口腔機能の維持、定期健診受診等についての指導や啓発活動を行う。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		8,546	千円	2.0	人	11,478	千円	20,024	千円
R7予算		4,600	千円	2.0	人	11,478	千円	16,078	千円
目標		歯科健診による口腔疾患の早期発見・早期治療と口腔保健の周知啓発等により、口腔の健康維持・増進に寄与する。							
実績・効果		健診件数等は次のとおり 令和5年度 個別指導 1,565人、集団指導 3,103人、フッ化物塗布 862人 令和6年度 個別指導 1,642人、集団指導 3,184人、フッ化物塗布 797人、オーラルフレイル予防教室 602人							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				口腔の健康維持・増進は、全身の健康維持及び健康寿命の延伸に不可欠であるため、必要である。			
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				国のガイドラインに基づき、子どもから高齢者まで切れ目のない歯科保健事業を実施しており、妥当性は高いと考える。			
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				国が示すフッ化物塗布やオーラルフレイル対応など様々なライフステージに対する切れ目のない口腔保健施策を保健所専門職が実施することによる有効性は高い。			
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				補助金の活用や、歯科医師会や歯科衛生士会との協力で、より多くの市民に啓発を実施しているため。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】 健康寿命の延伸のためには生涯口腔機能を保つことが重要であり、そのための歯科保健事業は今後も継続する必要がある。									

事業名 栄養改善対策費				担当 保健所健康増進課					
事業概要		健康づくりや生活習慣病予防のために、市民が適切な食生活を実践することを目的として、自らの食生活の見直しにつながる栄養・食改善の普及啓発事業に取り組む。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		489	千円	2.0	人	11,478	千円	11,967	千円
R7予算		537	千円	2.0	人	11,478	千円	12,015	千円
目標		市民が正しい知識を得て、自らの食生活を見直し改善することができる。							
実績・効果		・「おたる食と健康展」を食生活改善協議会と共催し、約400名の市民へ普及啓発を実施 ・特定給食施設等の栄養管理状況の評価、指導、助言を110施設に実施し、約15,000人の利用者の食習慣、栄養状態の改善を支援							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				食生活の見直しにつながる正しい知識の普及は、市民の生涯に渡る良好な食生活の実現及び健康寿命の延伸に不可欠である。また施設指導は法と条例等に基づき実施しており必要である。			
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・国の通知に基づき食生活改善推進員を養成し、その活動を通して栄養改善事業の普及啓発を図っており、妥当性のある方法で事業を実施している。施設指導も法に基づいた内容で実施している。 ・若者向けの料理教室や職域に対しての健康教室を開催し、広く普及啓発を行っており、世代に偏りが生じないよう事業を実施している。			
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・こうした住民参加型の地区組織活動は、既に全国で実績があるため。 ・施設指導は多くの市民が利用する給食施設等を対象としており、その管理上の質向上に資する。			
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				補助金の活用、養成した食生活改善推進員との協働による「食と健康展」イベントの開催等、効果的に啓発活動を実施している。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】 市民の健康づくりにおいて栄養・食生活の改善は非常に重要であり、今後も継続が必要である。									

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名 小樽健康づくりウォーキング推進事業費		担当 保健所健康増進課	
事業概要		生活習慣病予防及び将来の認知症予防に有効なウォーキングの手法を市民へ普及するための市民ボランティアを養成する。	
事業費(A)		概算人工	
人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	180 千円 0.8 人 4,591 千円	4,771 千円	
R7予算	188 千円 0.8 人 4,591 千円	4,779 千円	
目標		市民が年齢を問わず気軽に取り組むことができるウォーキングを、ウォーキングサポーターを通して、広く市民へ普及することで、健康寿命の延伸につなげる。	
実績・効果		市民の運動不足を解消し、生活習慣病予防や認知症予防に効果的である。 令和5年度：サポーター養成数2名、フォローアップ研修21名 令和6年度：サポーター養成数8名、フォローアップ研修24名 総登録者数：54名	
点検・評価	点検項目	評価	評価の理由等
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	ウォーキングは、全身の健康維持及び健康寿命の延伸に不可欠であり、地区組織活動により広く市民に普及することが必要である。
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	・既に全国で地区組織活動として実績がある。ウォーキング及びノルディックウォーキングは、年齢を問わず気軽に取り組み、高齢者が多い小樽で推進することは妥当。 ・サポーターが講師となり介護予防教室等へ出向く活躍の場づくりやサポーターを通じて普及啓発を行う体制づくりを行っている。
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	ウォーキングは有酸素運動であり、更にポールを用いることで膝に負担がかからず運動強度が上がる。坂の多い本市の特性を生かした、有効な事業である。
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	全額補助金を活用できている。サポーター養成者数の増加により効率性は高くなるものの、新規サポーターの減少と登録者の高齢化が進んでおり、事業の周知が課題となっている。
評価の結果を踏まえた今後の方向性			継続
【今後の方向性の説明】			
より多くの市民にウォーキング及びノルディックウォーキングの取組を広げるため、事業の周知方法を工夫しながら、今後も継続していく。			

事業名 地域自殺対策緊急強化推進事業費		担当 保健所健康増進課	
事業概要		自殺対策を推進するため、地域におけるネットワークの強化、自殺対策を支える人材（ゲートキーパー）の育成、住民への啓発・周知等の事業を実施する。	
事業費(A)		概算人工	
人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	163 千円 1.0 人 5,739 千円	5,902 千円	
R7予算	200 千円 1.0 人 5,739 千円	5,939 千円	
目標		近年、本市の自殺者数が増加していることから、自殺予防及びこころの健康相談について周知を強化し、事業を浸透させていくことで、自殺者数の抑制につなげる。	
実績・効果		主な取組状況は次のとおり 令和5年度：相談援助技術専門研修 35人、健康教育 6回・149人、ポスター配布 336枚、チラシ配布2,487枚 令和6年度：ゲートキーパー養成講座 127人、健康教育 6回・212人、ポスター配布 501枚、チラシ配布2,580枚	
点検・評価	点検項目	評価	評価の理由等
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	自殺対策基本法に基づき自殺対策を総合的に推進することで自殺の防止を図り、市民が健康で生きがいを持って暮らすことのできる社会の実現に寄与するため、必要性は高い。
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	国が提供する「地域自殺実態プロファイル(注)」に基づき、関係機関と連携して地域特性に応じた自殺対策を実施するため、妥当性は高い。 (注)全ての都道府県・市町村それぞれの自殺実態を分析したデータ
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	地域の特性に応じた包括的な取組や、多職種・多機関による連携体制の構築は、地域づくりの推進につながるため、有効な事業である。
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	自殺総合対策大綱に基づき、道の補助を活用しながら実施するため、効率性が高い。
評価の結果を踏まえた今後の方向性			継続
【今後の方向性の説明】			
関係機関との連携により、誰一人とり残さない健康づくりの展開と包括的に生きることを支え合うまちを目指すため、今後も継続していく。			

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名 特定健康診査事業費			担当 福祉保険部保険年金課					
事業概要	高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、小樽市が国民健康保険の保険者として被保険者に対し実施するもので、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に着目し、糖尿病等の生活習慣病の発症及び重症化予防のために実施。							
	事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	71,973	千円	3.0	人	17,217	千円	89,190	千円
R7予算	87,064	千円	3.0	人	17,217	千円	104,281	千円
目標	R7健診受診率 34.0％（国民健康保険データヘルス計画【第3期】小樽市特定健康診査等実施計画【第4期】による目標値。最終年度（R11）目標は40.0％）							
実績・効果	受診率の推移は次のとおり。 R4：30.4％ R5：34.4％ R6：35.9％							
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			法令に基づき保険者義務として実施する事業であり、健診を入口とした疾病予防・重症化予防の取組を通じ、本市の健康寿命の延伸及び医療費の適正化に資している。			
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			「国民健康保険データヘルス計画【第3期】小樽市特定健康診査等実施計画【第4期】」に則り、令和11年度までの目標達成に向けて計画どおり実施。令和8年度中間評価において目標値の上方修正を検討。			
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			健診データから生活習慣病の発症・重症化予防のための事業対象者を抽出し、「特定保健指導」「生活習慣病重症化予防事業」等を実施することで医療費の伸びの抑制などに資している。			
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			国・道の交付金の活用及び保険者努力支援制度における取組評価分の獲得ができています。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続			
【今後の方向性の説明】 健診実施及びそのデータを活用した保健事業の実施により、国保被保険者の健康維持と医療費の適正化に資する効果が期待されることから、未受診者への受診勧奨やインセンティブ付与の強化など、受診率向上のための取組等について継続して実施していく。								

事業名			担当						
事業概要									
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		千円		人	0	千円	0	千円	
R7予算		千円		人	0	千円	0	千円	
目標									
実績・効果									
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等				
	必要性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い							
	妥当性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い							
	有効性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い							
	効率性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い							
評価の結果を踏まえた今後の方向性									
【今後の方向性の説明】									

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名	検査機器整備事業費			担当	保健所生活衛生課			
事業概要	検査機器整備計画（試験検査 G 臨床）に基づき、保健所における検査体制の確保と検査精度の維持のため、計画的に機器を更新する。							
	事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	0	千円	0.0	人	0	千円	0	千円
R7予算	271	千円	0.1	人	574	千円	845	千円
目標	検査機器整備計画に基づくとともに、機器の状況を勘案しながら計画的に機器を更新し、継続的な検査の提供に繋げる。							
実績・効果	検査機器の整備・更新は次のとおりとなった。							
	検査機器整備数（臨床） 令和4年度：9台、令和5年度：3台、令和6年度：3台 なお、令和6年度は保健所移転に伴い新検査室整備事業費により、機器を整備している。							
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・行政検査として市が実施しなければならない検査業務があり、検査を維持するためには機器整備は必須である。			
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・整備計画に沿った明確で妥当な目標を設定している。			
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・計画以上に進捗し、既に目標は達成している。 （R1～R10合計目標37台に対し、R1～R6合計は47台）			
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・多くの機器が国補助金の対象であり、財源を確保している。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続			
【今後の方向性の説明】								
目標は達成しているが、現在の検査業務を継続するため、今後も検査機器整備計画に沿って本事業を継続する。								

事業名	理化学検査機器整備事業費				担当	保健所生活衛生課			
事業概要	検査機器整備計画（試験検査G 理化学）に基づき、保健所における検査体制の確保と検査精度の維持のため、計画的に機器を更新する。								
	事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)		
R6決算	8,155	千円	0.1	人	574	千円	8,729	千円	
R7予算	8,155	千円	0.1	人	574	千円	8,729	千円	
目標	検査機器整備計画に基づき、機器の精度を維持・管理するために、計画的に機器を更新する。								
実績・効果	検査機器の整備・更新は次のとおりとなった。 検査機器整備数（理化学） 令和4年度：2台、令和5年度：4台、令和6年度：3台 なお、令和6年度は保健所移転に伴い、新検査室整備事業費により、機器を整備している。								
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・行政検査として市が実施しなければならない検査業務があり、検査を維持するためには機器整備は必須である。				
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・整備計画に沿った明確で妥当な目標を設定している。				
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・計画以上に進捗し、既に目標は達成している。 (R1～R10合計目標37台に対し、R1～R6合計は47台)				
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・検査機器が高額なため予算は大きいですが、検査に必要不可欠である。				
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続				
【今後の方向性の説明】									
目標は達成しているが、現在の検査業務を継続するため、今後も検査機器整備計画に沿って本事業を継続する。									

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名	食品衛生対策費			担当	保健所生活衛生課			
事業概要	食品等取扱事業者に食品の衛生的な取扱いを指導し、市民に新たな知識や情報を提供することにより、食中毒や食品による事故を防止する。							
	事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	872	千円	6.0	人	34,434	千円	35,306	千円
R7予算	930	千円	6.0	人	34,434	千円	35,364	千円
目標	食品衛生関係法令に基づき、食品等取扱事業者に対する監視・指導を行い、市民の衛生的な食と生活環境を確保する。							
実績・効果	監視率（食品衛生法に基づく許可数に対する監視数の割合）は次のとおりとなった。 （目標値 毎年100％） 監視率 令和5年度：117.4％令和6年度：116.3％令和7年度（見込）：117.7％ 食品関連施設の衛生水準の維持向上を図った。							
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・事業を廃止すると、食品関連施設の衛生水準の低下により市民の衛生的な食と生活環境への影響が大きい。			
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・持続性のある実施体制が整っている。			
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・食品衛生の専門的な知識と経験を有する監視員により指導を行っており、有効な事業となっている。			
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・資源投入量（予算・人工）に対する実績が妥当であり、効率的である。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続			
【今後の方向性の説明】								
令和3年の食品衛生法改正で許可取得の取扱いが整理され、一施設当たりの許可取得数が減少している状況がある。営業許可には期限があり、旧法施設が年々新法施設に切り替わるため、監視率が減少しているように見られるが、この法改正を受けて目標値は監視対象の許可に対して100％と設定し、この目標を達成できるよう引き続き事業を継続する。								

事業名 環境衛生施設指導経費				担当 保健所生活衛生課					
事業概要		理・美容室、旅館等の環境関連施設に対し監視指導を行い、衛生水準の維持向上を図る。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		148	千円	2.0	人	11,478	千円	11,626	千円
R7予算		157	千円	2.0	人	11,478	千円	11,635	千円
目標		環境衛生関係法令に基づき、生活衛生関係営業等の規制、監視を行い、市民の衛生的な生活環境を確保する。							
実績・効果		環境関連施設監視率は次のとおりとなった。（目標値(R10) 160％） 監視率 令和4年度：182.0％ 令和5年度：174.3％ 令和6年度：158.1％ 環境関連施設の衛生水準の維持向上を図った。							
点検・評価	点検項目		評価			評価の理由等			
	必要性		☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・事業を廃止すると、環境関連施設の衛生水準の低下により市民の衛生的な生活環境への影響が大きい。			
	妥当性		☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・明確な目標を設定し、その達成のための実施体制が整っている。			
	有効性		☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・環境衛生の専門定な知識と経験を有する監視員により指導を行っており、有効な事業となっている。			
	効率性		☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・資源投入量（予算・人工）に対する実績が妥当であり、効率的である。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】									
目標値の達成に向けて、各年度、概ね順調に進捗していることから、本事業を継続する。									

令和 7 年度行政評価 《事業評価調書》

事業名		ペットの譲渡の仲介		担当		保健所生活衛生課			
事業概要		保健所やボランティアが保護したペットの譲渡の仲介を行う。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		15	千円	0.1	人	574	千円	589	千円
R7予算		15	千円	0.1	人	574	千円	589	千円
目標		飼い主探しサポート（譲渡率）を75%以上とする。							
実績・効果		飼い主探しサポート事業での譲渡率は次のとおりとなった。 令和2年度 90.5%、令和3年度 76.9%、令和4年度 84.2%、令和6年度 51.0% 一定の効果が表れている。							
点検・評価	点検項目	評価		評価の理由等					
	必要性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い		・譲渡会は適正な飼い主とのマッチングの場であると同時に、保護動物の現状や、責任ある飼い方（適正飼養）の重要性を広く一般に伝える啓発の場でもあるため、必要性は高い。					
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い		・行政機関や民間団体が保護した動物に新しい飼い主を見つけることで、問題の解決に最も直接的かつ実効性の高い手段として機能している。					
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い		・ある程度期待した効果が表れている。					
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い		・動物保護団体のボランティアの協力があり、効率的な事業となっている。					
評価の結果を踏まえた今後の方向性		継続							
【今後の方向性の説明】 近年は多頭飼育崩壊現場で保護時期を逃したり、不健康の動物が多く、譲渡に結び付きにくいことから、今後、一層の繁殖の抑制と適正飼育の啓発に努める。									

事業名				担当					
事業概要									
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算			千円		人		千円	0	千円
R7予算			千円		人		千円	0	千円
目標									
実績・効果									
点検・評価	点検項目	評価		評価の理由等					
	必要性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い							
	妥当性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い							
	有効性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い							
	効率性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い							
評価の結果を踏まえた今後の方向性									
【今後の方向性の説明】									